

第 5 5 号

出典：メトロニダゾールの毛嚢炎に対する有効性

メトロニダゾールの抗炎症作用及び免疫抑制作用の論文

塩原 哲夫 他、

[HIV seronegative eosinophilic pustular folliculitis successfully treated with metronidazole.](#)

HIV の血清反応陰性の好酸球性膿疱性毛嚢炎がメトロニダゾールでの治療に成功した。

Treatment with metronidazole resulted in complete clearance of the lesion.
メトロニダゾールでの治療で、病変は完全に消失した。

Inaoka M, Hayakawa J, [Shiohara T.](#)

J Am Acad Dermatol. 2002 May;46(5 Suppl):S153-5.

PMID: 12004299 [PubMed - indexed for MEDLINE]

論文掲載誌：*Journal American Academy Dermatology* 2002,46:S153-5

HIV seronegative eosinophilic pustular folliculitis successfully treated with metronidazole

HIV の血清反応陰性の好酸球性膿疱性毛嚢炎がメトロニダゾールでの治療に成功した。

1970 年にオーフジによって初めて、記述された好酸球性膿疱性毛嚢炎(ERF)は、末梢血液好酸球増加に加えて、顔面、リンパ本幹および末端の掻痒症の袋果状の丘疹および膿疱が再発するのが特徴である。

これらの特徴的組織障害は、しばしば結合して周辺から中心部へに伸びて多環式紅斑性局面を形成する。

中心部には色素過剰症状が残る。局面の活発な縁は、よく多数の膿疱に占められる。最近、ERF のような組織障害が HIV 感染と結びつけられて報告されました。

しかしながら、HIV 感染患者で見られる変種の臨床症状は ERF 症状のある HIV の血清反応陰性患者の中で報告されたものとは異なることが明確になってきた。

HIV が関連する変種は、増悪、寛解よりも、むしろ慢性的で頑固であって、リンパ本幹、頭部および首、および末端の体の中央部に近い側に蕁麻疹の、小胞の、あるいは非小胞の紅斑丘疹が特徴です。

このようにして、この変種は通常の臨床諸症状とは性質が大きく異なる。この臨床諸症状

のため ERF に関して HIV 関連の好酸球性膿疱性毛嚢炎という名を選ぶに至った。
これらの諸症状に一樣に有効な治療法はなかったのだが、日本では HIV の血清反応陰性、つまり古典的な ERF にはインドメタシンが一番よく行われる治療法である。
われわれの報告は、インドメタシン治療で効果が見られず、メトロニダゾール(MNZ)に好反応を示した
HIV の血清反応陰性患者に関するものである。

Case Report

症例報告

30 歳の日本女性は、顔面と上腕に掻痒性、膿疱性、紅斑性発疹が再発した。検診で明らかになったのは、顔面、上腕、背中上部(図 1)に膿疱と赤い丘疹をちりばめた紅斑性病変であった。大部分の病変は、色素過剰症状の部位のある体の中心部でみられた。

末梢血球数は、好酸球がやや増加(絶対数、680/ μ L)を示し、CD4/CD8 比で 0.89(絶対 CD4 は 608/ μ L)と減少を示した。HIV 抗体血清は、陰性だった。顔面病変の細菌培養組織は、2、3 のケースでは黄色ブドウ球菌に陽性でした。顔面膿疱からの生検標本の組織病理調査結果は、毛包と皮脂腺の周辺に主に多数の好酸球と好中球から出来た広汎性浸潤を示した。

中略

Discussion

考察

ERF は HIV 感染との関連が報告されて、最近注目を浴びるようになった。この結びつきが AIDS への進行中に TH2 反応へのサイトカイン・パターンにおける変化を反映すると推定されているが、このような解釈は、IL-4 の血中濃度が ERF の中で上がり、インドメタシンによる寛解が IFN γ の血清濃度増加に関係していたという観察と矛盾しない。したがって、ERF や ERF 様病変が、TH2 サイトカイン・輪郭プロフィールへの変更を起こす多くの状況下で頻繁に生じるであろう。

中略

MNZ の使用を中止すると病変が再発し、再開すると病変の完全な消失するという研究成果は、MNZ が ERF に有効であることを強く示唆する。HIV が関連する好酸球増加症の毛包炎の臨床症状が、非 HIV 感染患者における ERF とは異なることが示されるので、容易に HIV が関連する好酸球増加症の毛包炎治療における MNZ の効能から ERF への効能を推定することができません。したがって、これは MNZ で治療成功した HIV の血清反応陰性の ERF の初めてのケースです。このケースで興味深いことは、治療によって ERF が関連した好酸球増加と発

熱が消失することである。

ニトロイミダゾール化合物群のひとつである MNZ はヒトトリコモナスおよびヘリコバクター・ピロリ菌治療に有効であることを示していたが、酒さや、顔面播種状粟粒性狼坐そうや、cheilitis 肉芽腫などのような他の皮膚疾患の治療にも有効であることが証明された。MNZ が毛嚢に内在している微生物に対する抗生物質の作用による病変の消失を引き起こしたと判断される。また、好酸性カウントと熱の全身的な影響から見て、細胞性免疫反応と肉芽腫構成を抑える他のメカニズムがわれわれの実験の場合にも影響を及ぼして可能性がある。この治療法が難治性 ERF 患者用に共通の治療モダリティ考えられる。